

ステークホルダー・エンゲージメント

基本的な考え方

大阪有機化学工業グループでは、ステークホルダーの皆様との建設的な対話を通じ、未来の子どもたちが幸せにくらせる持続可能な社会を共創してまいります。

ステークホルダー・エンゲージメントの取り組み

ステークホルダー	主な対話の方法・機会	主な対話窓口
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の営業活動 ●R&D/品質会議 4～5件/月 ●品質監査 1件程度/月 	営業部門 品質保証部門
お取引先様	<ul style="list-style-type: none"> ●日々の調達活動 ●サプライヤー監査 1件程度/月 ●技術・品質ミーティング 1～2件/月 ●安全講習会(物流事業者対象) 金沢工場/酒田工場/大阪事業所 各1回/年 	購買部門 エンジニアリング部門 品質保証部門 業務部門(運送関連)
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ●株主総会 ●個人投資家向け説明会 大阪 1回/年 ●機関投資家向け説明会 東京 2回/年 ●ONE-on-ONEミーティング 30～50回/四半期 ●事業報告書/有価証券報告書 	IR広報部門 経営企画部門
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ●従業員エンゲージメント調査 1回/年 ●所属長との面談 6回/年 ●入社3年内従業員との面談 1回/年 ●社内報 3回/年(2021年) 	総務部門 経営企画部門
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ●地域団体・イベントへの参加 2～3回/月 ●大学との共同研究 3テーマ ●学生との対話 4回/年 	事業所 技術部門 営業・経営企画部門

大学での講義 ～失敗から得られることもある～(北海道大学)

大学からの要請で2018年より北海道大学大学院の客員准教授として授業(単位:1)をしています。授業では「電子論を用いた高分子化学の基礎」と「公開特許をベースに私たちの身近にあるアクリル材料」について教えています。また面白い研究者になってほしいという思いから課題では失敗から生まれた発明を調査してもらい、研究者にとって何が重要かをレポートとして提出してもらっています。学生からのレポートには電子レンジ、ペニシリン、バイアグラ、ミノキシジル、導電性高分子、タンパク質の質量分析などさまざまな例が挙げるとともに普段の研究において「よく観察すること」や「なぜ失敗したかを考えること」「好奇心を持つこと」などが大切であることが書かれています。また講義の後の待機時間では学生からの個別の研究に関する相談に乗っています。

大学での講義 ～サステナブルな社会を考える～(同志社大学)

「CSRレポートを通してサステナブルな社会を考える」をテーマに講義を行いました。当社のCSRレポートを事例に発行されるまでの道のりや苦労話を交えて「サステナブル」に対する考え方について紹介し、グループディスカッションでは「脱炭素社会における化学会社の未来像と役割期待」をテーマに話し合い、最後にグループで発表を行っていただきました。さらに、「2050年、どんな未来を予測し、自分が未来づくりに貢献しているか?」というテーマでレポート作成を依頼し、後日提出していただきました。



参加いただいた学生さんからは、化学会社に対するカーボンニュートラル等への貢献に関する期待や、自らが社会に対して貢献できる内容などがレポートにて報告されており、サステナブルな社会を目指す一員としての意識を高める機会となっております。